

## ■ 温泉サミット-日本の湯治文化を考える-

[日 時] 平成 22 年 11 月 12 日 (金) 12:30-14:30

[会 場] ホテル ベルナティオ/フィオリア

[主 催] 雪国観光圏

[参加者数] 70名 (温泉関係者、病院、企業、大学、自治体、産業団体他)

[内 容]



### 【会議概要】

◇基調講演「日本の湯治文化を考える」: 山崎 まゆみ 氏 (温泉エッセイスト)

- 日本人にとって湯治とは、農耕民族である我々が稲刈りの後に温泉で骨休めをして、そして元気になってまた働くといったメカニズム。
- また温泉地は全国から訪れる人々の身分を越えたコミュニティであり、貴重な情報交換の場。
- ただ高度経済成長期を経て、現代の温泉地は大型化しすぎた。それをより原風景である湯治のあるべき姿に、今の感覚で復活させることが温泉地に求められている。
- 1週間以上温泉地に滞在することが「湯治」であったのだが、どうしても現代人には二泊三日あるいは丸三日ほどが限度ではないか、その三日の中で温泉宿の人達がいかに湯治をお客に提供できるかが課題。

◇事例紹介「雪国の新しい湯治のススメ」: 松之山温泉、越後大湯温泉、みなかみ温泉、越後湯沢温泉

- 短い滞在期間でも食の提供により「土地」をより感じていただく取り組み、人と人、街と温泉、観光客に対して土地になじんでもらう縁作りといったプログラム・まちづくり、温泉病院に滞在してのダイエットプラン (二泊三日で健康になる) の作成、地域の土地を案内する、旅人のコンシェルジュ役という考えなど、各地の取組を紹介。

◇意見交換

- キーワードは「環境・健康・観光」。湯治文化に今の技術や情報を加えつつ、昔ながらのスタイルを取り戻すことが、新たな「TOJI」として地域全体の活性化につながる。
- “つながる”機会と“つなげる”工夫。温泉は人と人を「結ぶ」場でありコンシェルジュ。人と人の絆のリレーが地域を形成する。そんな場こそが人々に笑顔を提供するのでは。
- 課題は、全国の温泉宿・温泉地、そして湯治場とは違う、その土地・素材の発展・宝探し・ブラッシュアップということ。



【議論を通じて新たに発見された健康ビジネスの可能性・課題等】

- 今あるものを守りつつ、温泉本来の持つ魅力や活力を考え直すこと。そこにヒントが隠されている。

【課題解決のために必要と思われる方策】

- ムリをしない持続可能な取り組みを絶やさず繋ぎ、地域を結びつけるコミュニティを形成していくこと。

【決定・同意・確認事項】

- 温泉旅館は地域産業のアンテナショップとして、また、地域の人々とのコミュニティとして、新たな健康関連産業との連携による相乗効果の可能性を秘めている。

主催者代表	雪国観光圏事務局 (湯沢町観光課内) TEL : 025(784)4850 関連リンク先 : <a href="http://snow-country.jp/">http://snow-country.jp/</a>
-------	---